

各機関における取り組み

2009年度の活動において、環境活動を主体的にとらえ実践してきた2機関の取り組みについてご紹介いたします。

盛岡支社の取り組み

(1) 熱風式融雪装置の燃料転換

現在使用している熱風式融雪装置^{※1}および温水マット式融雪装置^{※2}について、環境配慮の観点から灯油燃料からガス燃料へ切り替えを行い、環境負荷低減を実現したほか、ユーザーによる油管理や漏洩検査が不要になるなどコストダウンも実現しました。

※1 熱風式融雪装置 熱風発生機により熱風(約70℃~80℃)を発生させ、ファンによりダクトを通して熱風を送り込みレールを加熱するとともに、ポイントおよび軌間内外を融雪する設備。

※2 温水マット式融雪装置 ボイラーにより発生させた温水(約40℃~50℃)をゴムマット内を循環させて軌間内外を融雪する設備。



ガス式熱風融雪



温水マット式融雪



ガスタンク

(2) JR東日本エコ活動の展開

2007年3月より、盛岡支社内の全現業機関において、「JR東日本エコ活動」を実践しています(94職場308テーマ)。全社員のさらなる環境意識向上を図るため、支社の担当者が各地区エコ会議に出向いたり、複数職場での意見交換会、エコ活動報告会等を開催し、支社と地区が連携を密にして活動の促進を図っています。

(3) 「いわて環境王国展」出展および「温暖化防止いわて県民会議」への参加

2009年11月岩手県等が主催する「いわて環境王国展」(盛岡駅西口県交流センター)に出展し、環境負荷の少ない鉄道事業の紹介をはじめ、温度差発電システム、世界初のディーゼルハイブリッド鉄道車両の開発DVDや地域社会と連携した植樹活動等、当社の環境保護活動の積極的な取り組みを広く紹介しました。

また、岩手県等主催の「温暖化防止いわて県民会議」(CO₂排出量8%削減)に参加し、連携してCO₂排出量削減に向け取り組んでいます。



いわて環境王国展

Voice



盛岡支社総務部企画室
課長
菅原 一成 (現:(株)ジェイアール東日本都市開発)
副課長
附田 良一
大鹿 清美

盛岡支社は環境保護の重要性を社員に徹底するため、経営計画の中で「地球温暖化に向けた取り組み」項目を具体的に掲げ、全職場での「エコ活動」(94職場で308テーマ)をはじめ、各地域と連携した「鉄道沿線からの森づくり」、「駅・オフィス等使用エネルギー」削減に向けての事務所、駅等への省エネ蛍光灯や案内掲示器等の導入、さらには駅・列車ゴミ、工事廃棄物等のリサイクル向上等さまざまな取り組みについて推進しています。また、環境講演会の開催や社会環境報告書説明会により意識向上を図っているほか、県主催の環境展に出展し、当社の取り組みのPRも行いました。

2010年12月には東北新幹線が新青森まで延伸します。環境に配慮した新駅の設置等、引き続き支社一丸となって環境への取り組みを進めていきます。

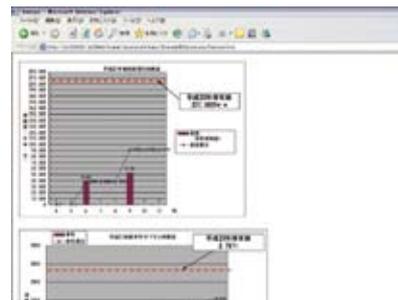
上信越工事事務所の取り組み

エネルギー使用量の「見える化」を実現

上信越工事事務所では、社員数140名程度という小さな組織を最大限活かすため、会社施策としての取り組みと、社員の自主的な活動の連携により、組織全体の環境経営に取り組んでいます。

2009年度においては、オフィス等における使用エネルギーの削減を着実に実行するため、その第一歩として「電力」「灯油」「ガソリン」「ガス」「コピー用紙」という使用エネルギーの見える化を実現しました。

今後は、「見える化」したデータに基づき、上信越工事事務所におけるエネルギー削減ポテンシャルを検討し、具体的な対策を行っていく予定です。



社内イントラネットを活用して「見える化」を実現

Voice



上信越工事事務所
総務課
及川 陽弘

2009年度より取り組みを始めたエネルギー使用状況のポータルサイト掲載は、所内社員全員が閲覧でき、一目で使用状況を把握できる便利なサイトです。

エネルギー消費量の「見える化」により、所内社員の「使用エネルギー削減」に対する意識を高め、さらなるエネルギー削減に向けて所内社員一丸となって取り組んでいます。